

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「好きな詩のよさを伝えよう」 教材名「好きな詩のよさを伝えよう」

2 単元の目標

詩の比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にすることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。詩の感想を共有して、自分の考えを広げることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①詩の比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「書くこと」において、相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ②「読むこと」において、詩を読んだ感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

目的をもって詩を読み、選んだ理由が伝わる紹介を付けて詩集を組む。好きという感想を、作品のどの言葉から感じたかに結び付ける。学習指導要領のB(1)ア・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

図書館の利用可能な詩集を手元で読み、題名・作者・掲載本と選んだ理由を記録する。配布物は自作の紹介を中心にし、引用が必要な場合は授業と権利の条件を教師が確認する。おおむね満足できる状況は、相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にしているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○詩集のテーマと読む相手を決める。複数の詩を読んで選んだ理由を記す。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○紹介文と目次を考える。読み合って選び方や紹介を見直す。	思①・②（選んだ材料・交流記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にすることができる。感想を共有し、読み手による感じ方の違いを確かめることができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」 【めあて】目的をもって詩を読み、選んだ理由が伝わる紹介を付けて詩集を組む。 〈予想される児童の反応〉 ・景色を感じる言葉が共通している。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」 紹介文と目次を考える。読み合って選び方や紹介を見直す。 詩集の目次案、作品の題名と出典、選んだ理由の紹介文。自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 紹介したい詩の感想を伝え合い、同じ詩でも読み手によって着目する言葉が違うことを確かめ、紹介する理由を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・景色を感じる言葉が共通している。 ・読むと元気になる感じが違う作品にもある。 ・友達の選び方を聞いて組合せを変えたいくなった。	図書館の利用可能な詩集を手元で読み、題名・作者・掲載本と選んだ理由を記録する。配布物は自作の紹介を中心にし、引用が必要な場合は授業と権利の条件を教師が確認する。 想定するつまずき：既成の詩を無断で複製して配布する、題名の共通点だけで選ぶ。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思①（選んだ詩と紹介理由の記録）・思②（感想の交流と見直した記録）
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の選び方を聞いて組合せを変えたいくなった。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

